

令和5年度第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日程及び場所

令和5年6月2日（金）

近畿中国森林管理局 大会議室 A（対面Web併用形式にて開催）

2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

3 議事概要

《検討結果》

国産丸太は、材の傷みやすい時期に在庫を抱えたくない製材工場の仕入れが鈍っていることや、合板工場の減産が継続していることから、並材を中心に軟調な相場となっている。

輸入木材は、新年度に入っても住宅需要の停滞感は和らぐことなく強まっており、構造材、羽柄材ともに低調な荷動きが続いている。Wウッド集成管柱は在庫調整が済んでいないプレカット工場が多いが、WウッドKD間柱は市中在庫が適正化し始めるとの見方も出てきている。

以上のことから、木材需要は落ち込んでいるものの、直ちに国有林材による供給調整を行う局面にあるとは判断しない。ただし、地域での樹種や用途等の需要動向、民有林材の出材状況、木材の輸出入状況、住宅着工戸数等について注視していく必要がある。

なお、国有林においては、地域における需給動向等の情報収集・分析を行いながら、素材生産事業の計画的な実施による安定供給に取り組むとともに、立木販売においても引き続き購入意欲向上に向けた搬出条件の整備を行いつつ、計画的に販売を進める。

〈主な情報、意見等について〉

○木材の需給動向について

- ・ 和歌山県内のプレカット工場では、住宅設備等の価格上昇の影響を受け、受注が若干減少傾向にあり、稼働率は80%程度となっている。
- ・ 和歌山県内の製材工場では、稼働率は95～100%となっているが、減産を始めた工場も出てきている。国産製品価格については、外材製品と同様に2月から若干下落傾向にある。
- ・ 和歌山県内の木質バイオマス発電所では、競合するC材の需要があり、燃料用材の集荷に苦労している。
- ・ 和歌山県内の原木市場では、スギ、ヒノキの価格がウッドショック前の価格に落ち着いてきており、4月のスギ中丸太の平均価格は13,030円/m³で前月比101%と横ばい、ヒノキ中丸太の平均価格は16,630円/m³で前月比90%と価格の低下が懸念される。
- ・ 兵庫県内の製材工場では、売れ行きの良い製品と悪い製品で二極化してきており、製材段階でそれぞれの生産割合を調整することで対応している。
- ・ 広島県内の製材工場では、昨年末辺りは稼働を抑制していたが、現在は住宅着工が若干減少しているものの、安定して推移していることから、正常な稼働に戻している。
- ・ 国産の木材製品のマーケットについては、底入りの状態だと思われる。欧州材は在庫の過剰が解消されつつあり、国産材はウッドショック後、国産材の認知度が上がったことから、スギ管柱については今までより手応えのある状況になっている。
- ・ 石川県及び京都府内の合板工場では、昨年10月から10%の減産を実施していたが、今年2月からは20%の減産に拡大している。6月以降も同レベルで推移する見込となっている。合板価格については、昨年末は2,000円/枚であったが、現在は1,600円/枚と下落している。
- ・ 兵庫県、岡山県内の集成材工場では、ラミナの受入制限を継続している。ラミナを受け入れてもらえたとしても、買取価格は非常に安くなっている。
- ・ 奈良県内の原木市場では、スギ・ヒノキともに並材価格は、4月に入り急落。虫害も懸念され、5月の市況は、長級・径級を問わず低調な市況が続いている。ヒノキは役物のみ横ばい。製紙・バイオマス向け低質材の原木不足は続いており、価格は安定している。寒伐り材の出材が終わり、5月の出材は減少傾向。5月に入り、伐り旬の悪さを考慮して、ヒノキの伐採は控えられつつあり、寒伐り材のスギが遅れて出材されている状況。
- ・ 大阪府内の製品市場では、4月の売上額は前年と比較して売上高が27%減、販売量も12%減、入荷量も17%減となった。木材価格は荷動きが鈍い影響で、ほとんどの材種で弱含み状態になっている。

○今後の見通し

- ・ 今後、Wウッドは日本への流入が抑制されるという見方もあることから、国産材製品としてはシェア拡大のチャンスだと思われる。
- ・ 奈良県内の原木市場では、暫くは住宅着工戸数の低調推移により、大口需要家の減産が続くと予想され、原木価格の低調は続く見通し。先行き市況の不透明感から山側の伐採は慎重な姿勢で新規の積極的な施業は見込めず、出材量は減少する見込み。6月以降は、伐り旬の悪さ及び梅雨時期を考慮して、低質材の施業に切り替わる事が予想される。
- ・ 大阪府内の製品市場では、例年は5月の連休明けは荷動きが比較的活発だが、今年は需要が少なく閑散とした状況が続いた。今後に関して国産材はほぼ横ばい状態が続くと思われるが、外材に関しては他社との競合もあり厳しい状況が続いている。木材価格に関しては弱含みであるが、外材の在庫調整が進み底値に近いとの声も聞かれる。

○その他

- ・ 和歌山県では、原木の需給情報の共有等に資する森林クラウドシステムを今年7月から本格運用する予定である。
- ・ 各地で木質バイオマス発電所が稼働を始め、全国的に燃料用材不足が叫ばれている。また、燃料用材の調達不足から稼働を停止した発電所も出ている。

F I T（固定価格買取）制度における木質バイオマス区分について、合法木材の残材等を間伐材等由来（未利用材）と同等の買取価格に見直してもらうことで、川上からの出材が安定し、より持続可能な発電事業に発展していくと思われる。

- ・ 現在、原油価格の高騰、資器材全ても高騰している。特に林業機械においては、1.5倍程度の価格で販売され、それに伴って中古機の取引価格も高騰している。それに加え、現状の木材価格の下落により、採算の悪化がコロナ禍前以上の状態になっている。
- ・ 燃料用材の需要増に伴い、B C D材をチップ工場に販売することが多く見られるようになってきた。B C D材を一括りにチップ工場へ運搬するだけであれば、素材生産業者としては仕分けをする必要もなく、市場手数料等も掛からないことから、このような状況が長く続くと丸太の流通体制が大きく変わる恐れがある。
- ・ 合板価格の下落の原因の一つとして、中国製合板の輸入量が増加し始めていることがある。また、国内の一部合板メーカーが減産せずに安値でシェア確保に走っていることも原因の一つと考えられる。

中国製合板の輸入量は、ピーク時の昨年6月に2万 m^3 、J A S違反問題により10月以降は3千 m^3 に減少していたが、今年3～4月は月平均6千 m^3 と倍増している。中国製合板の輸入が増加した理由は、J A S違反問題がうやむやにされているためであり、農林水産省が再発防止策をきちんと立てなければ、J A S制度に対する信頼を失ってしまうと思われる。また、

輸入禁止としているロシア製単板を使用した中国製合板を輸入禁止としていないことも根本的な問題である。

この中国製合板の輸入に関しては、1枚当たり1,300円台と非常に低価格で、国産合板の1,600円に対し300円も安いことが問題である。今後、JAS認証材であれば安い方が良いと、中国製合板が日本の合板需要・価格を左右し、それが合板用B材の需要・価格まで左右することに繋がる恐れがある。

5月に開催されたG7サミットにおいて、対ロシア制裁を維持・強化することで同意されたにも関わらず、なぜ輸入禁止としているロシア製単板を使用した中国製合板が輸入されているのか、不思議でならない。

- ・ 昨年3月から、ロシア原産の木材は紛争木材とされ、森林認証されないが、ロシア製単板がクリーンウッド法における「合法性を確認された木材」なのか非常に疑問がある。

○樹木採取権による木材取引について地域の木材需給等への影響について

- ・ 令和4年度の樹木採取箇所からの素材生産量について、実施報告に基づき、地域の木材需給等について影響がないことを確認した。

令和5年度

第1回 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会

出席者名簿

委員

氏名	所属等	備考
松下 幸司	京都大学 教授	Web出席
原 賢一郎	和歌山県農林水産部森林・林業局 林業振興課長	
戸川 睦徳	株式会社戸川木材 代表取締役	Web出席
八木 数也	株式会社八木木材 取締役	Web出席
三栖 基史	株式会社山長商店 常務取締役	Web出席
荻原 直樹	中国木材株式会社山林事業部 副本部長	Web出席
内藤 和行	林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長	Web出席
難波 芳英	江与味製材株式会社 代表取締役会長	
西垣 泰幸	西垣林業株式会社 取締役会長	Web出席

森林管理局

氏名	役職等	備考
松本 寛喜	次長	
石上 公彦	森林整備部長	
西村 敏行	資源活用課長	
前田 浩二	企画官（供給戦略）	
柴田 章治	供給計画係長	
石田 英夫	行政専門員	

令和5年度 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会 委員名簿

区 分	氏 名	所 属	備 考
学識経験者	まつした こうじ 松下 幸 司	京都大学 教授	W e b 出席
都 道 府 県	はら けんいちろう 原 賢 一 郎	和歌山県農林水産部森林・林業局 林業振興課長	
	かけや あきのり 掛 屋 晶 則	岡山県農林水産部 林政課長	ご 欠 席
素材生産業	とがわ むつのり 戸 川 睦 徳	株式会社戸川木材 代表取締役	W e b 出席
	やぎ かずや 八 木 数 也	株式会社八木木材 取締役	W e b 出席
木 材 業 界	みす もとふみ 三 栖 基 史	株式会社山長商店 常務取締役	W e b 出席
	おぎわら なおき 荻 原 直 樹	中国木材株式会社山林事業部 副本部長	W e b 出席
	ないとう かずゆき 内 藤 和 行	林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長	W e b 出席
	なんば よしひで 難 波 芳 英	江与味製材株式会社 代表取締役会長	
原木市場 製品市場	にしがき やすゆき 西 垣 泰 幸	西垣林業株式会社 取締役会長	W e b 出席